大伴小だより

富田林市立大伴小学校　令和４年３月２４日（木）年度末号

～成長について～

校長　堤　周作

今年度も予測不可能の激動の１年でした。特に3学期は、本校も感染の大波に飲み込まれ、子どもたちや保護者の皆さんに、多大なご負担やご心配をおかけしました。さらに教職員にも本人や家族の感染が少なからずあり、学びへの影響ができるだけ小さくなるよう、教職員全体で補完しあい乗り切ろうと努めました。休まざるを得なかった子どもたちや教職員は、長い休みの間に、様々なことを考えていたことでしょう。また、休んでいた友だちや教職員を心配していた子どもたちは、言葉に出さずとも思いやりを持った行動があちこちで見られ、大伴小全体が大切なものを得て、大きく成長したように思えます。

3月6日（日）、NPO団体「大阪掃除に学ぶ会」（ボランティア）の23名の方々と、本校教員と保護者13名で、トイレ清掃を行いました。この団体は、掃除を通して「心を磨く」という運動に賛同された方々により自主的に運営され、無償の活動で特定の団体や組織とは関係なく、属性は企業の代表や主婦の方など様々です。本校では卒業式前にトイレをきれいにして 6年生を気持ちよく送り出してあげたいと考え、昨年に引き続き、この時期にお願いしました。8時半の開会から約2時間、さくら校舎１階と、さくら校舎前の外の古くかなり汚れているトイレの便器、壁、戸、床、鏡を、信じられないくらい“ピッカピッカ”に磨きあげました。子どもたちには、コロナ禍でもみんなのために行動した大人たちの思いに応え、丁寧に使ってほしいと願います（「大伴小ブログ」でも紹介）。

3月17日（木）、透き通るような青空の下、早咲きの河津桜や6年生園芸栽培委員たちと一緒に植えて育てた花々が咲き乱れる中、74名が立派に卒業しました。在校生代表として式後半に参加した5年生も、けじめある姿で卒業生を祝福してくれました。卒業生と5年生の別れの言葉と歌のかけあいがとてもカッコ良く感動的で、「大伴っていいなぁ」と改めて感じました。5年生は、大伴小の次の最高学年を担う人にふさわしく、凛々しく頼もしかったです（卒業式と、9日の6年生お別れ集会も「大伴小ブログ」で紹介）。

ところで、私はこれまで中学高校での勤務経験はありますが、小学校は大伴小が初になります。大伴小でのこの2年間は見るもの全てが新鮮なものでした。その１つに、子どもたちの成長があります。まだ人格が固まっていない子どもたちと相対していると、子どもの成長の速さ、大きさに驚きます。中高とは違い、小学校では成長が目に見えるのです。保護者の皆さんは、毎日見ているので気づきにくいかもしれませんが、子どもたちは学校と言う公の場でぐんぐん成長しています。そこで、私見（感想）を述べてみます。

１年生入学までに獲得しておきたい事は、「人に対する基本的信頼・愛着」「基本的な生活習慣」「道徳性や社会性の芽生えとなる遊び等の子ども同士の体験」があげられますが、入学時はその獲得状況は児童によりまだらです。それが本格的に学校教育でもまれると、全員が成長していきます。

１→2、2→3、3→4年生は、ただただ純粋に学年毎の成長の大きさに驚きます。「人として行ってはならないこと」を理解し、集団や社会のルールを守る態度等の規範意識の基礎が形成されます。多動・他罰的傾向からメリハリがつき、TPO がわかってきます。学習面では具体が徐々に複雑になり、作文は事象だけから自分の思いを含めて書くようになり、自然や美しいものや出来事に感動する心が育ってきます。未熟な子どもたちが、スポンジに水が吸収されるように学んでいき、１年間で全然違う人格や集団のように見えます。私は先生たちとしょっちゅう、「この子ら成長したなぁ!」と目を細めて言い合っています。

一方、4→5、5→6年生は、どこかの時期で壁にぶつかるようにみえます。低学年時、みんな一緒で楽しかった事が、4年生ぐらいから徐々に変わります。学習面では具体から抽象的で分化したものとなり、様々な物事を対象化して考え、距離をおいた分析ができるようになります。一方、身体も知識も心も大きく成長して自己肯定感を持ち始める反面、発達の個人差が大きくなります。そのため、自分を他人と比較して、思い描く自分の姿と実際の自分の姿のギャップに気づき、「第一の危機（悩み、劣等感）」が訪れます。

このような時期から、教員や親は子どもへのアプローチ（指導法）を少し変えていく必要があると思います。端境期なのでなかなか難しいのですが、親御さんと教員が子どもの気持ちや態度等を共有し、同じ方向で指導や見守りを続けると、この危機を乗り越え、大きく成長（心の脱皮）します。具体的には、抽象的な思考に徐々に適応しはじめ、他者の視点に対する理解ができるようになり、理想とは違う自分の姿を肯定的に受け入れられるようになります。自他の尊重の意識や他者への思いやりが育まれ、集団における役割の自覚や主体的な責任意識が高まります。実社会に出る準備の基礎を獲得し、自立から自律に移行していきます。

私の経験上、バランスを崩す「第二の危機」は中学2年生前後に訪れ、まさに思春期に突入。大人からは見えにくく、心を込めて子どもと正対する必要があり、そこに教育者としての醍醐味もあります。

大伴小学校では、そのような発達段階を踏まえて教育課程（授業、行事、委員会、クラブ、取組み等）を編成しています。保護者様と一緒に、子どもたちの人生の大切な一時期を、小学校として最大限の役割を果たしていきたいと考えます。今年度も至らぬ点が多々あったかと思いますが、皆様の本校に対するご理解・ご支援に感謝申し上げるとともに、来年度も子どもたちの成長に向けて、どうぞよろしくお願い致します。